

〈新任石田先生へインタビュー〉



昔の甲南大生と今の甲南大生との違いは

大昔、私が甲南大生だった頃と比べて、平均的には今の学生の方が真面目に勉強しているかもしれません。ただ、私の学生時代の本学の一部の学生は驚くほど優秀だった記憶があります（私は残念ながらその中に入ってなかったですが）。甲南大経済学部の何人かの畏友は、当時まだ学部生にもかかわらず、私がおのち、教員として接した日本トップ水準の大学院の経済学専攻の院生に学業で全く負けていなかったと思います。着任したばかりでよくわかりませんが、今でも、そういう学生がいることを期待しています。

出身大学(修士/博士)ではどのような勉強をされておりましたか？

甲南大学経営学部を卒業後、修士課程はワシントン大学（米国シアトル）のMBAプログラム（2年コース）に行きました。MBAプログラムは学者・研究者養成の専門的コースではなく広くファイナンス、会計学、組織論などを履修する、ビジネスの実務家養成コースです。私は、特にファイナンスが面白くて、とことん勉強したいと思いましたが、この分野の論文を読むために必要な大学院レベルの経済学（ミクロや計量経済）の基礎が欠けていました。そこで、MBAと並行して、経済学の修士課程の授業も受け始めましたが、むしろそちらに夢中になりました。MBAの学位取得後に帰国し、バブルの頂点で積極的に中途採用を行っていた証券会社に就職、証券市場の基礎研究や、金融リスク管理のシステム開発などの仕事をしました。90年代後半の金融危機時にUCサンディエゴ校の経済学博士課程へ進み、計量経済学、特にその金融データ分析への応用である計量ファイナンスの研究をしました。

石田先生の研究テーマを教えてください

株価や為替レートがどのように変動するかを、市場データの統計分析により明らかにし、金融リスク管理の精度向上に役立てることです。

学生時代の思い出は

一・二年の時は、興味の向くままに、勉強ばかりしていました。特に、英語学習にはマニアックにはまり、洋書も100冊以上読み、それがその後の財産になりました。三年生のときはまわりの同級生の興味の中心だった自動車の購入のため毎日アルバイト、車を買ってからは友達と遊んでばかりでした。まあ、楽しかったですが、もう少しバランスのとれた時間の使い方をするべきでしたね。

ゼミを持たれるとのことですが…（どのようなゼミにしたいか？）

金融を中心とした知識や分析力を身につけてほしい。金融機関での勤務経験を活かして、金融の最前線で活躍できるような人材を育てることに役立てればと考えています。勉強のモチベーションの高い学生、ゼミ生同士お互

いにリスペクトしあえるような学生に来てもらいたいです。毎年、ひとりかふたりぐらいは、ウォールストリートのような世界の金融センターを目指すぐらいの野心的な学生にも出会いたいですね。

甲南大学の学生の印象は

これまで接する機会があった何人かは、皆さん、他人に思いやりのある接し方ができる、温かい感じの好印象な学生さんでした。これが今時の甲南大生のカラーなのであれば素晴らしいことだと思います。

授業のやり方でこうしようと考えていることはありますか。

今現在は模索中ですが、大教室でも一人で一方的に授業を行うのではなく、学生に話しかけたり、質問をしたりする授業を行いたい。授業に出てもらうことに意義のあるような講義にしたい。授業中に積極的に発言することでプラスになるような授業にできたらと思います。

お勧めの書籍は

村上春樹とか小説もいいですが、経済学部生なら、まずは、経済学のエッセンスが一冊に詰まった、1年次指定の「伊藤元重『入門 経済学』」をボロボロになるまで読むこと、話はそれからだといいたいですね。

お休みの日は何をされていますか。

大学の研究者というのは、研究が仕事で、趣味で、生きがいという人が大半です。また、世界的に研究者間の競争が熾烈な分野では、どんなテーマでも、誰かがすぐに論文を書いてしまうので、休んでなんていられないという人が多いです。特に、週末こそ研究活動に集中できる時間なので、私もやる気100%で毎週末を迎えますが、結構、映画を見たり、ギターを弾いたりしてリラックスしています。

最後に何か甲南大学で授業をするにあたっての意気込み、甲南大学の学生へ、特に経済学部生に求めるモノについてのメッセージをお願いします。

学生時代の有意義な時間の使い方はいろいろあると思いますが、少なくとも、経済学をしっかりと勉強することはやるべきことのリス

トに入れておいて下さい。世界中の大学生は日本の学生よりはるかに勉強しているということも意識してほしいです。

石田先生、ご協力
ありがとうございました。

甲南大学経済学会編集委員
発行日 2013/06/05
学会ニュース第1号
インタビュー日 2013/04/17

〈新任春日先生へインタビュー〉



甲南大学や経済学部生の印象を教えてください。

今期私の受け持っている授業は一年生の配当科目が多く、まだ大学自体に慣れていない学生さんが多いこともあると思いますが、きちんとおとなしく、行儀がいいという印象があります。ただ実際には活発な方が多いのだらうと思いますので、これからどう変わっていくのかがすごく楽しみです。

学生時代はどのような専門科目を学ばれましたか？

学生時代は計量経済学のゼミに入っていました。理論そのものの学習より、どのような分野に適用すると面白いかを議論する中で、

いろいろな産業を見たことが良い経験になりました。様々な産業の中でどんな企業があるか、またはどのような競争状態であるか、或いはその企業の利潤がどうなっているのかなどについて学びました。

産業におけるデータ分析とは具体的にどのような研究ですか？

ミクロ経済学を学習すると、完全競争状態であれば社会的総余剰は最大になるが、企業数が少なく独占や寡占の状態では価格が上昇し死荷重が発生する弊害が生じると説明されます。でも最近では、単に企業数が少ないだけでは「競争が成立していない」とは言えないのではないか、という見方も出てきました。例えば携帯電話の産業を見ますと、DoCoMo、softbank、auなどの3社が主要プレーヤーとなっている寡占産業ですが、実際には激しい競争が展開されており、超過利潤を享受しているほど余力がありません。つまり市場が寡占状態になっていることと、反競争的行動をして市場競争を歪曲していることとは必ずしも同一ではなく、実際にデータで検証してみないと分からない部分があります。このような問題を検証する分野です。

なぜデータ分析に興味を持たれたのですか？

偶然も大きかったですね。もともと数字を眺める事も嫌いではありませんでしたが、甲南大学と同様、最初の入門科目の一つに統計学がありました。たまたまそこで教えて頂いた先生のゼミが比較的少人数で入り易かったこともあって、学ぶきっかけとなりました。

学他にこれは学んでみたいという専門科目はありますか？

私はいままで情報通信、金融・物流などの産業を見ていきましたが、他にもいろいろな産業を見ていきたいと思っています。例えば小売業、特にコンビニエンスストアとかスーパーマーケットなどについて調べてみたいと思っています。理由としては、すごく移り変わりが激しい産業であること、POSデータという消費者の購買行動に関するデータが豊富に蓄積されていること、等が挙げられます。そのような分析を行うためには、経営学やマーケティングに関する知識も必要になってくると思います。

最近気になったニュースなどはありますか？

そうですね。やはり「アベノミクス」による金融緩和とその影響については気になります。自分が外貨預金を持っているから為替の動きが気になるという事もあります。政策効果にはメリット・デメリット両面あるのだという事を経済学部の方に学んでもらう良い事例だとも思います。例えば、現在の円安傾向は輸出産業には歓迎すべきことだと思われませんが、消費者の立場から見ると海外旅行が割高になり必ずしもお得ではありません。こうした双方の効果を実感する事例として、とても良い事例だとも思います。あと関西系企業の不振も気になっています。パナソニックやシャープなど、伝統ある企業が持ち直してくれるかどうか、注目しています。

今後ゼミを持たれると思いますが、どのようなゼミを築こうと思いますか？

そうですね。おそらくどこのゼミでも言われていると思いますが、やはりゼミというのは学生さんが主体です。ですので、私はこれをやってみてはどう？などと言った提案はしますが、基本的には学生さんの方から色々な事を率先してやって欲しいなと思います。また

前任の大学でも実施していましたが、他大学の学生さんとのディベート大会なども企画してみたいと思います。経済学会のインナーゼミナール大会へも参加して欲しいと思っています。

最後にゼミに来てもらいたい学生さんはいらっしゃいますか？

負けず嫌いの人が来てくれると嬉しいです。普段はあまり勉強が好きではないと言っている人でも、相手と競うとなると妙な力を発揮する人がいますよね。ディベートなどではそういう人の方が向いているのではないかと思います。

春日先生、ご協力
ありがとうございました。

甲南大学経済学会編集委員
発行日 2013/06/05
学会ニュース第1号
インタビュー日 2013/04/12